

のバランスで健康づくり

はじめに。  
【漢方医学】は、こんな考え方をする医学です。

漢方医学は、古代中国に起源をもち、数千年もの臨床試験を経て現在まで受け継がれてきた安全性の高い伝統医学です。

近年、漢方ブームといわれて久しく、世の中に広がって定着してきましたが、それでも現代西洋医学に慣れた現代人にとって、漢方医学はやはり分りにくい面が多々あります。

そこで、漢方医学に対する理解の一助として「漢方通信」を折々に発行することにしました。

●「個人差」を重視する

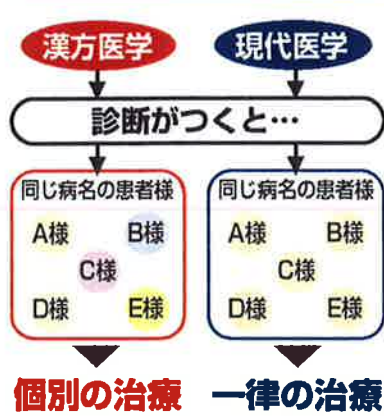
漢方医学には、多くの特徴があります。そのひとつに「一人ひとりの〈個人差〉を重視する」があります。

現代医学では、病気の診断がつくと、同じ病名の人是一律に同じ治療が行われ

るのが普通ですが、漢方では違います。

漢方では、へ一人ひとり皆ちがう」というとらえ方で、一人ひとりの体質をみてその人に合うように漢方薬をサジ加減して処方します。〈個人差〉を重視して治療していくのが特徴です。

例えば、同じ環境にいてもカゼをひく人もいれば、ひかない人もいるように〈個人差〉があることが分ります。昨日は元気だったが今日は疲れているというように、その日の体調で



同じ健康状態が毎日続く訳ではありません。天候が毎日同じでないように、〈昨日の私〉は〈今日の私〉ではありません。

●「下痢」を例にとると...

お腹をこわして下痢をしたとします。それを、漢方では、

- ① 腹が冷えて下痢をした↓腹をあたためて下痢をとめる。
  - ② 元々胃腸が弱くて下痢をした↓胃腸を丈夫にして下痢をしない体質改善をする。
  - ③ ストレスがらみで下痢をした↓ストレスに打ち勝つ体作りをしながら下痢をとめる。
- という様に、個々のケースで対処が異なり、一人ひとりの〈個人差〉を重視し、その時々々の体の状態を観察して対処していくのが特徴なのです。

●「検査」をしない代わりに「体の表面を観察」

また現代医学では、血液検査・心電図・レントゲン検査・胃カメラなどさまざまな検査を行います。漢方医学では基本的には検査をしません。

それは、漢方医学では体の内外に関連があつて、内部の変化は表面に現われるというとらえ方から、体の表面を観察し体の内部や全体の動きを読みとろうとしているからです。

その他にも、薬の作用は充分に出したいが、副作用は出たくないとの思いから、漢方薬を単独でなく数種類組み合わせ用いるのも特徴のひとつです。

それでは、次回からの「漢方通信」にご期待ください。